

鮭 鱒 彙 報

第 二 卷 第 四 號

昭 和 五 年 七 月 一 日

北 海 道 鮭 鱒 孵 化 事 業 協 會

(北 海 道 廳 水 産 課 內)

目 次

資 料

齊藤光雄君の「鮭鱒卵の卵膜軟化症に就きて」を讀みて……………

……………農林省水産試驗場技師 農學博士 關根秀三郎(一)

虹鱒稚魚の豐平川へ移殖……………干歲孵化場長 菊地 覺助(三)

同 場 技 手 小 林 教 司

雜 報

鮭鱒孵化事業協議會……………(七)

霞ヶ浦産鮎……………(一〇)

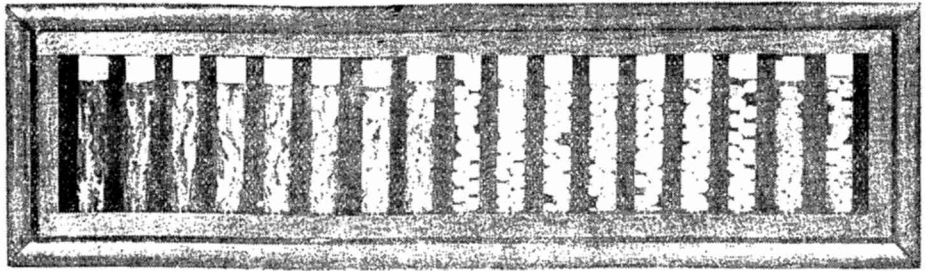
會 報

第二回總會要録……………(一〇)

入會者……………(一九)

會費領收報告……………(一九)

會 告



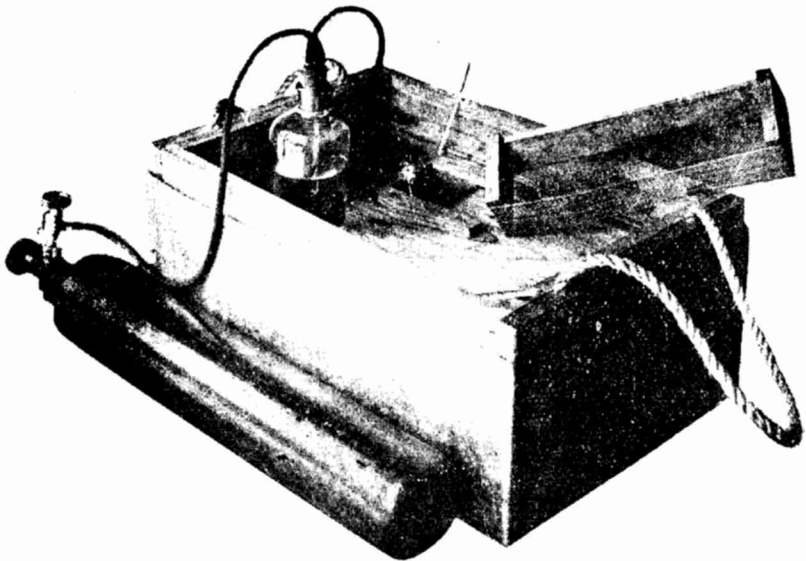
鮭發生標本實費配布

一組 金 五 圓 送料不要

教育、學術、産業上の好資料たる鮭發生標本を作製し前記實費を以て配付す、体裁優美にして室内裝飾品としても好適す至急申込あれ

北海道鮭鱒孵化事業協會

北海道廳水産課内



鮭稚魚運搬器 (約十分の一大)

去る三月千歳孵化場より東京迄四十六時十分間を要し上圖の運搬器に稚魚二千尾を收容し千歳より函館迄は氷を使用し札幌、聯絡船、盛岡にて水を交換し壓搾酸素を約一三〇cc供給して一尾の死魚も出さず安全に輸送し得たり。
本器は森脇水産試験場長の考案に係るものなり。

御來札の節は

是非是非

虎屋へ

虎屋へ

虎屋へ

弊館は市の中位に位し道廳南門前に在り電車道へは二丁大通へは半丁閑靜にして間敷十二

御客様の御満足を求めんと設備万端改善に鋭意努力致し居ります
良好なサービス親切丁寧をモットーと致し宿料の點も絶大なる御勉強申し上げます

札幌市北一條西五丁目三番地
道廳南門圖書館前

虎屋旅館

電話二六九一番

資 料

齊藤光雄君の「鮭鱒卵の卵膜軟化症に就きて」を讀みて

農林省水産試験場技師農學博士

關 根 秀 三 郎

鮭鱒卵の卵膜の軟化(?)により内部の胎仔の發育が充分では無い時期に卵膜が破れて早産のやうな状態で死亡するので、切角數年間手鹽にかけて飼育して未だ成果として誠に情ないばかりでなく、猶此の鱒増殖事業が只この最後の不結果の爲に安定な基礎を持ち得ずして事業化することに困難を感じて居るとの事を聞いて、不肖乍ら此の方面に興味を持つて此數年間飼育上の研究に没頭して居る著者は其の原因が奈邊にあるかを究めて、其の解決をなし、該事業の爲一臂の努力を捧げたいと考へたのであつた。丁度其話を聞いた數日前木崎で川尻君と鱒卵の孵化及び其後の經過について種々と話しあつた折、話題は湧水中に飼育した親魚から得た卵が思はしくないと云ふ事につき、同氏は其原因を湧水が一年中温度に差違がないと云ふ點を挙げら

れたが、著者は當該温度が鱒の生殖に不適當である爲で親魚の個体の發育と生殖腺の發育とは別に考へる必要があると附け加へた、即ち同氏の話す處によると湧水は十一度前後であるが河水の方は冬期は二―三度位迄降下する。而して此の低温が鱒の生殖腺の發育に直接の原因を持つて居るのではないかと云ふ處迄進んだ。乃で前日卵膜軟化の話を聞き、其孵化場の水温が一般に高温で個体の發育はそれが爲木崎等より良好なることも聞いて居るので卵の問題は冬期水温の降下により何等かの解決がつけはせぬかと考へ其の旨當事者に進言したのであつた。

其後歸京して講習所の動物室を訪れた時、齋藤君の報告を讀むに至つて、前記した卵膜の軟化につきては北海道の本場に於て既に幾多の好例があり、同君の觀察によると、

水通しが悪い爲卵と水との接觸が充分でない場合に起ると云はれ其の一例としては探卵が多きに過ぎし場合の如き孵化盆に排列する卵数の多過ぎるとき又は孵化槽不足により養魚池中に置きし爲水流弱く水通しの悪いと云ふが如き實例を示されしを讀んだ時、著者の胸にトット思ひ當つたことがあつた。それは先年木崎で得た虹鱒稚魚であるが、それは沼澤産のもので一つはアトキンス式、他は礫間で孵化させたものについて、分折した結果であつた、其の時分折結果につき第一の疑問は無機物中カルシウムの量であつた。即アトキンス式により孵化された稚魚は、砂礫間でしたものに比して、無機物の量殊にカルシウムの量が劣つて居つたことである。

その結果を御目にかけると次表の如くである。

生体量	乾燥物	粗灰分	カルシウム
砂礫孵化	100.0	10.0	0.1
アトキンス式	100.0	10.0	0.1

右の結果の示す通り、孵化期間卵と水との接觸の多少は胚仔の發育に重大關係を有し引ては稚魚時代に於ける体成分にまで其影響を及ぼして居ることを考へさせる。尙絶食の場合魚体内の有機物は減少(消費されて)するが

見した(未發表)によつて自然界の現象は極めて合理的に行はれて居ることに感心したことがあつた。

然し前掲の場合の如きは斯かる合理的の神技も心なき人爲の爲に目的を達することなしに至るを思はしめるもので卵の完全なる發育には一定量の無機鹽類を外界より攝取する要ありとするに、これを人爲的に制限するが如き場合に起る現象の如く考へられるのである。

即ち卵と水との接觸を不充分ならしめた結果、水から必要分を攝取出来ぬ爲、卵膜からの攝取が度を過ぎて、卵膜を早期的に薄弱ならしめる結果として齋藤君の所謂「卵膜軟化症」なる奇現象が顯出したものと見られる。

齋藤君は軟化症の原因を水の不足と云はれたが、著者は一歩進んで、水不足なれば何が故に軟化症を起すかの原因

虹鱒稚魚の豊平川へ移植

千歳孵化場長 菊池 覺助
同 技手 小林 教司

都市に居住し生活戦線に活躍する人々は、其疲勞を醫しエネルギーの補給に、又は娛樂に釣遊を撰ぶ者は近年著し

無機物は外界より攝取されて増加して居ることを實驗的に認め、此の現象は卵の孵化の場合にも認められた事實である。

生体量	水	乾燥物	無機物
廣藪吸收當時	26.5	16.3	3.0
サケ稚魚(絶食後)	32.5	17.7	3.5
河マス(受精卵)	50.0	33.0	6.6
第三十五日目	4.3	3.5	0.5
第四十六日目	3.5	2.3	0.5
(孵化當日)	4.0	2.6	0.5

従つて是等の事實からして、卵と水流の關係は、卵内の發育上無機物質の代謝作用に重大な影響を及ぼすことは直に考へられる事柄であり、更にアトキンス式孵化器に於て孵化する場合見らるゝ卵膜が如何に薄弱であることは實驗者の誰人も認むる處で、これに就ては胚仔の發育に連れ骨格の發育を認めるが、この材料は卵内容によるは當然であるが、其の一部を卵膜の組成成分よりも攝取することは考へられる事柄で、孵化當事見らるゝ薄き卵膜は全く以上の事實を裏書するもので、最初は相當厚き卵膜も漸次溶解され少くともその内の無機成分の如きは仔魚の構成に使用せらるゝ結果無機鹽類と結合して居る有機物の消化が起つて卵膜は漸次薄弱となつて行くものと考へられる。この想像は、蟹の甲殻の剥落する際甲殻中の無機鹽類は、剥落に先立ち其の一部は体内に吸收さるゝ事實を先年タラバガニにつき發

を以上の如く説明するのである。

尙齋藤君の例は多く天然産である鮭の卵についてのものである様に思ふが、更に池中養殖の場合の如きは、卵膜軟化症の如き現象の顯出の原因は川尻君の水温の關係もあらうし、又食餌との關係も其重大影響を卵に及ぼすことは直に考へられることである。

最後に最初に述べた或地方の卵膜軟化現象の如きは、北海道の場合とは多少違ひ、卵膜は産卵當時既に薄弱なる由であつて見ると食餌、水質、水温等飼育との關係に就いて充分な調査研究を要することと思はれるので、是れが對策については當事者の深甚なる考慮を促し、これが解決につき一日も早く取りかゝり得るやう實行案を立てられんことを希望する次第である。

るのを見るであらう、多くはウグヒの如きものらしいが滅多に釣り上げたところも見ない、が兎に角意外に熱心な人々の多に驚く、よくも魚の種が盡きないものだと思はれる。

豊平川は鮭鱒の繁殖には好適の處ではあるけれども、鮭は稚魚として流下し、鱒はヤマベとして多少河に残るであらうが、数多き釣遊者の爲めに虐げられて近年特に振はない、價值少きウグヒ位のものであつても、兎に角魚でさいあればといふ有様である。虹鱒の豊平川放流は正に釣遊者の爲めに大干に雲霓を見た悦びであらう。

昨年度は豊平川治水事務所の池を借用して虹鱒の孵化をやつたが、濁水の爲めに卵の飼育孵化共に不成績に終つた本年は臍囊吸収せる虹鱒の稚魚を約三万二千五百尾を放流したが、簡単な運搬方法に據つたけれども成績は案外良好であつた、豊平川附近に適當の孵化場を設けられる迄二、三年も繼續的に行つたならば必ずや見るべき成績を擧げ得る事を確信する。

虹鱒は鱒と違つて流下しない事と、産卵後に斃死しない特長を持つて居るので自然繁殖の可能性もあるから、漸次荒廢して來た豊平川の價值を高からしめる事にもなり勞々都人士の食膳を賑はすに至る事も遠き將來ではなからふと思ふ。

時	刻	運搬器	斃死數	備	考
千歳孵化場發	前	七、三〇	八、〇〇	運搬尾數六千尾	
千歳驛着		八、四〇	九、〇〇	換水す、注水温八度五分	
同驛發		九、〇〇	九、〇〇	換水す、注水温十二度	
北廣島驛着		九、五〇	一〇、〇〇	高温なるを以て氷片を入れて調節す	
東札幌驛着		一〇、三〇	一〇、〇〇	換水す、注水温九度	
同驛發		一〇、五五	九、〇〇		
石切山驛着		一一、一五	一〇、〇〇		
放流時		一一、三〇	二、〇〇	放流尾數五千九百八十八尾	
計	所要時間 四時間五十分				

千歳孵化場出發後馬車の動揺烈しかつた爲め非常に心配したけれども千歳驛にて換水せるに元氣恢復、更に千歳驛惠庭間では汽車の動揺によりて水は器外に溢れる爲め手桶の方は二個に天秤棒を通し車掌の厚意によりて一端は臺に凭せ、一端は天井よりロープを以て吊り下け手を添へて汽車の動揺による調節をなしたが動揺に依りて生ずる波動は頗る適度であつた爲めに全く理想的の状態であつた、ボルネ氏の方は上蓋を施してある爲めに水の動揺によりて器外に溢れるといふ事はなかつた、石切山驛より僅かに二十間許りの處から放流したが成績頗る良好であつた。

第二回經過

(五月二十六日)晴

虹鱒稚魚の運搬は特種に考案されたものでなく、當場に有り合せの手桶二個とボルネ氏式のトタン製圓筒形罐を使用した、放流場所は定山溪線石切山驛の側の川から行つたが、これは運搬の便利なる爲めと、割合に稚魚を子供等に掬はれたりする事から逃れるのと、虹鱒棲息所として適當した個處が多かつた爲めである。

運搬は前後六回行つたが今簡単に其經過を書いて見ると次の如くである。

運搬に要したるものは前記手桶二個ボルネ氏の活魚運搬器の外

自轉者用空氣ポンプ 一個
ポンプのゴム管を取換へ先端に硝子管をつけ其先には「ニハトコ」の心を焼いた炭を簞入し押し出さるゝ空氣を細泡として發散せしめ靜止時又は魚の動靜を見て時々水中に酸素を供給する用に供す。

第一回經過

(五月二十一日)晴

時	刻	運搬器	斃死數	備	考
千歳孵化場發	前	七、〇〇	八、〇〇	運搬尾數六千尾	
千歳驛着		八、二〇	九、〇〇	斃死は全部馬車の動揺に依る換水す、注水温八度五分	
同驛發		九、〇〇	九、〇〇	換水す、注水温十二度	
北廣島驛着		九、五〇	九、五〇	換水す、注水温九度	
東札幌驛着		一〇、三〇	九、〇〇		
同驛發		一〇、五五	九、〇〇		
石切山驛着		一一、一五	七、五〇		
放流時		一一、三〇	一〇、五〇	放流尾數五千九百八十八尾	
計	所要時間 四時間二十分				

第三回經過

(五月二十八日)晴

時	刻	運搬器	斃死數	備	考
千歳孵化場發	前	七、〇〇	八、〇〇	運搬尾數六千尾	
千歳驛着		八、二〇	九、〇〇	運搬尾數六千尾	
同驛發		九、〇〇	九、〇〇	換水す、注水温八度五分	
北廣島驛着		九、五〇	九、〇〇	換水す、注水温十一度	
東札幌驛着		一〇、三〇	九、〇〇	換水す、注水温九度三分	
同驛發		一〇、五五	八、〇〇		
石切山驛着		一一、一五	八、五〇		
放流時		一一、三〇	二、〇〇	放流尾數五千九百五十八尾	
計	所要時間 四時間十三分				

放流時氣温二十四度に達し爲めに水温上昇するを以て
絶へず氷塊を入れて水温の調節を圖りたり。

第四回經過

(五月三十日)晴

時 刻	運搬器 斃死數	備 考
千歲孵化場發 前 七、〇	八、〇	運搬尾數六千尾
千歲驛着 八、二	九、〇	二 換水なす、内八尾途 中動搖飛散斃死 注水
同 驛發 九、一〇	九、〇	温八度五分
北廣島驛着 九、五	一〇、五	器は換水せず注水温十 二度
東札幌驛着 一〇、四三	九、〇	換水なす、注水温九 度五分
同 驛發 一〇、五		
石切山驛着 一一、五		
放 流 時 一、三	河水温 三、五	四〇放流尾數五千九百三十 三尾
計 所要時間 四時間十七分		六七

第五回經過

(五月三十一日)晴

時 刻	運搬器 斃死數	備 考
千歲孵化場發 前 七、〇	八、〇	運搬尾數六千尾
千歲驛着 八、二	八、〇	二七換水す
同 驛發 九、一〇	八、〇	
北廣島驛着 一〇、〇〇	九、五	換水なす、注水温十 二度
東札幌驛着 一〇、四三	一〇、〇	二八換水す、注水温九度五 分
同 驛發 一〇、五	一〇、〇	

時 刻	運搬器 斃死數	備 考
石切山驛着 二、一五	二、〇	放流尾數五千九百二十 五尾
放 流 時 二、三	河水温 三、五	
計 所要時間 四時間五分		七

氣温高き爲め氷の不足を來し水温も時々高温に達せし
事あり。尙運搬器内の水藻稍々多量なりし故之に纏絡
斃死せるもの稍々多かりき。

第六回經過

(六月二日)雨

時 刻	運搬器 斃死數	備 考
千歲孵化場發 前 七、〇	八、〇	運搬尾數二千五百尾
千歲驛着 八、二	七、八	七 換水す、死魚は全部動 搖飛散の爲なり
同 驛發 九、一〇	八、五	
北廣島驛着 一〇、〇三	八、〇	換水す、注水温十二度
東札幌驛着 一〇、四三	七、九	
同 驛發 一〇、五		
石切山驛着 一一、三		
放 流 時 二、〇	河水温 二、〇	三六
計 所要時間 四時間		三六

以上六回に亘る稚魚輸送に於て運搬尾數三万二千五百尾
に對する斃死數二百三十六尾で百分率〇、七二となり放流
總尾數は標本を除いて三万二千二百四十四尾である。而し
て斃死の状態を見るに概して臍囊吸收後間もないものは弱
く然らざるものは水の動搖にも案外に強い、又動搖を避け

る爲めに水藻を入れることも多い場合には却て稚魚を纏給
せしむる、氷は絶対に必要で運搬器内の水温の上昇は全く
致命傷である。此運搬に於て試に鮭の稚魚も入れて見たが
虹鱒と比較して格段に弱い事を認めた、運搬器としては手
桶でも不可ではないけれども水の動搖の爲め器外に飛散し
たり取扱が不便だつたりするから矢張りボルネ式の活魚運
搬器の如きものゝ方は萬事に好都合であることを認める。

雜 報

鮭鱒孵化事業協議會

道廳水産課主催、鮭鱒孵化事業協議會は六月十三日、道
水産會樓上で開催された、出席者は道廳側、内藤産業部長
小石水産課長、森脇水産試験場長、水産課及水産試験場養
殖係員並に千歲、西別、留別の三孵化場長、民間側は各孵
化場經營者並に技術員三十五名であつた。協議の結果は次
の通りであつた。

答 申

これが對策に就きて意見を求む。

關係各孵化場より左記障害の種類の報告あり尙詳細は後
日書面を以て答申する筈。

- (1) 堀株孵化場
 - イ 國富嶺山嶺毒被害
 - ロ 稻苗代に使用する硫酸銅による被害
- (2) 尻別川鮭鱒人工孵化場
 - イ 尻別川各所に設けられたる發電堰堤による被害
- (3) 朱太孵化場
 - イ 親魚捕獲期に當り施行せらるゝ朱太川護岸工事の被害
- (4) 利別孵化場
 - イ 灌漑溝による被害
- (5) 上ノ國孵化場
 - イ 木材流送による被害
- (6) 遊樂部孵化場
 - イ 煉乳工場廢液による被害
- (7) 洞爺湖孵化場
 - イ 長流川に於ける幌別嶺山嶺毒被害
- (8) 勇拂孵化場
 - イ ウトナイ沼に於ける姫鱒區劃漁業權設定に伴ふ稚魚亂

諮 問

孵化事業施行各河川に於ける各種障害の種類狀況並に之

- (9) 染退孵化場
 - (イ) 灌溉溝の被害
 - (ロ) 木材流送による被害
 - (ハ) 河川内土木工事に依る借地被害

(10) 三石孵化場

- (イ) 河口に於ける鮭建網による被害

(11) 荻伏孵化場幌別孵化場

- (イ) 三石孵化場と同様河口に於ける鮭建網による被害

(12) 十勝孵化場

- (イ) 北海製糖會社工場廢液の被害
- (ロ) 製紙會社工場廢液の被害

(13) 釧路水産會

- (イ) 釧路川切換工事に伴ふ被害
- (ロ) 富士製紙會社工場廢液による河水汚濁
- (ハ) 阿寒川發電堰堤による被害

(14) 尾幌川孵化場

- (イ) 河口附近に於ける各種漁業による障害
- (ロ) 尾幌川の分水工事に伴ふ親魚遡上不良

(15) 根室鮭鱒養殖水産組合

- (イ) 鮭鱒稚魚亂獲の被害
- (ロ) 西別川口に於ける建網による被害
- (ハ) 河川内バラス採取による障害

(16) 泊孵化場

- (イ) 河口附近に於ける鱈刺網による被害
- (ロ) 有害魚族に依る被害
- (ハ) 罐詰工場の河水引用に依る被害

(17) 網走外二郡鮭鱒養殖水産組合

- (イ) 灌溉溝による被害

(18) 湧別孵化場

- (イ) 灌溉溝に依る被害
- (ロ) 木材流送に依る被害
- (ハ) 鋸屑の河川放棄に依る被害
- (ニ) 發電所貯水放流に依る被害

(19) 枝幸漁業組合

- (イ) 幌別川に於ける澱粉製造廢液排出による被害

(20) 天鹽孵化場

- (イ) 灌溉溝による被害
- (ロ) 亞麻工場廢液の被害

指 示

- 一、孵化事業監督指導に關する件
- 二、孵化場新設改造豫定の件
- 三、技術員の異動に關する件

注 意

- 一、親魚捕獲に關する件
- 二、採卵孵化に關する件
- 三、放流に關する件
- 四、事業經營方法に關する件
- 五、獎勵金下付出願に關する件
- 六、豫算書に關する件
- 七、帳簿の整理に關する件
- 八、技術員の採用解任に關する件
- 九、親魚捕獲許可願に關する件
- 十、孵化場の新設改造許可願に關する件
- 十一、親魚捕獲日報に關する件

希 望

民間側より左記希望事項の提出があつた。

一、漁業取締規則第四十三條に關する保護區域及期間變更の(件十勝外四郡鮭鱒養殖水産組合)

二、廢液防止に關する件(釧路水産會)

三、孵化場建設物に對し免稅の件(擇捉島水産會)

四、堤防敷地使用に關する件(紋別鮭鱒養殖水産組合)

五、孵化事業獎勵金の交付額を規定最高限度迄向上交付せられんことを望む(根室鮭鱒養殖水産組合)

六、北海道漁業取締規則第四十三條に依る保護期間を更に左記の河川を追加せられんことを望む。

當幌孵化場所屬野付郡床丹川及支流ポントコタン川共三十一線より下流川口迄期間六月十五日より翌年一月三十一日迄(根室鮭鱒養殖水産組合)

七、前年の決議の實施狀況を翌年の會議に於て御説明願ひ度し(同上)

八、モベツ川を保護河川に編入せられんことを望む(紋別鮭鱒養殖水産組合)

講 演

題名 西別孵化場に於ける鮭卵の被害に就て

講演者 北海道水産試験場技師 高安三次

本會の目的を達するため最も必要なる機關誌を「鮭鱒彙報」として昭和四年度中隔月一回發行せり、其の内容は本會々務の報告通信の外、論説、資料、抄録、趣味、雜報の各欄に分ち本道鮭鱒蕃殖及漁業に關する事項を主とし毎號約二十二頁のものにして行文平易、然も科學的に立脚して編輯をなし、會員一般、道内外關係官公署、學校に配付したり、其の發行配付數左の如し。

一號	發行數	吾部	配付數	四二部	會員	二二
二號	同	同	同	同	會員外	三〇〇
三號	同	同	同	同	同	三〇〇
四號	同	同	同	同	同	三〇〇
五號	同	同	同	同	同	三〇〇
六號	同	同	同	同	同	三〇〇
七號	同	同	同	同	同	三〇〇

右の外臨時出版物として左のものを刊行せり。

ヤマメの話	發行數	二五〇部	配付數	二〇〇部
鮭鱒事業計畫概要	同	一五〇	同	一〇〇
鮭鱒事業要覽	同	五〇〇	同	未配布

三、鮭發生標本製作配布

鮭發生標本の製作は相當技術を要するを以て、經驗ある者に委託し本會指定の形式に依り製作せしめ、配布には

荷造送料を委託者に方て分擔し、宣傳、廣告、製作準備實は本會に於て負擔することとし實施せり。配付狀況次の如し。

百三十七組 有償配布(二組に付五圓)
二十五組 無償配布

四、養鱒試驗

ヤマメ養殖試驗は未だ據るものなく、一般に參考となる業績を渴望する所なり、殊に鮭鱒孵化場の財政豊ならざるものは空池を利用して斯業を行ふは有利なりと認め、本會卒先之が試驗に着手せり

前述の如く孵化場空池利用の目的あるを以て、試驗の場所は千歲孵化場鮭仔魚池四十坪を借受け五月一日浮游後約一ヶ月半を経たる体長平均一寸二分の鱒稚魚二万尾を放養せり。然るに七月より同養魚池改築工事起りたるため通水不可能となり、急遽鱒養魚池に移したり、移入養魚池は純湧水池にして、夏期養魚に適せず、且つ同地は水閣腐朽しあるを以て千歲孵化場に於て修理の上貸與せられたるも、小形なる鱒は僅かの間隙を求め逃避したるため減耗甚しかりしは遺憾とするところなり。

飼育中の餌料は千歲孵化場に於て採取せる鮭探卵後の親魚の肉の分與を受け毎日全体量の五割を標準として給與したり。管理は千歲孵化場の好意により遺憾なきを得た

り。

本年五月末日現在尾數一千尾にして、最大七寸、最小三寸、平均四寸の体長にして重量三匁五分あり、歩減は前述の理由により九〇%餘を示したるは遺憾なるも成長度前述の如く良好なり。

五、豊平川鮭親魚捕獲採卵試驗

石狩川早期鮭増殖の目的を以て、千歲孵化場の試験として豊平川鮭親魚捕獲並採卵を本會に於て委託を受け九月二十五日より「ウライ」装置を以て實施し十二月十七日を以て終了せり。

捕獲總數千二百三十一尾、内雌四百尾、雄百九十八尾を親魚として使用し百万七千五百粒を採卵し、之を千歲孵化場に輸送し孵化をなし九十三万一千五百尾を放流せり。

六、地方費補助

本會に於ける印刷物の刊行、鮭發生標本配付、養鱒試驗に對し地方費より金四百九十六圓交付を受けたり。

七、受託事務

本年度中受託設計せるもの左の如し。

- 長流孵化場 新設工事
- 遊樂部孵化場 道水路改造工事
- 朱太孵化場 孵化室養魚池擴張工事

利別孵化場

孵化室改造工事

八、河水汚濁防止に關する陳情

本道鮭鱒漁業安定の爲め唯一の方法たる人工孵化事業に大被害を與へつゝある各種工場廢液排出防止策を講ずるは緊急事なるを以て、之れに關し四月十日農林大臣に陳情書を提出したり。

議案第三號

昭和五年度事業計畫及豫算に關する件

一、昭和五年度事業計畫

- (イ) 會報發行、七月より隔月一回「鮭鱒彙報」を發行す。
- (ロ) 臨時出版、本會の目的を達するに必要と認むる印刷物を刊行す。
- (ハ) 鮭發生標本、前年度に引續き製作配布す。
- (ニ) ヤマメ養成試驗、本年度も前年度に引續き千歲孵化場養魚池を借受け之を試みんとす。

二、昭和五年度經費收支豫算の件

- 歳入の部 一金三千二百十三圓也
- 歳出の部 一金三千二百十三圓也
- 差引なし

漁場の整理 合同成立と共に直ちに沖出延長を目的とする漁場の整理を行へり、尙重要と認むる漁場には二階網を設けたり。
整理の前後に於ける各漁場の沖出間数を左に掲ぐ。

免許番號	沖出間数		沖出間数の増減
	整理前の終點	整理後の終點	
紋鮭定 第五九號	一、三〇〇	一、三〇〇	なし
同 第六〇號	一、一〇〇	一、一〇〇	なし
同 第六二號	一、〇〇〇	一、二〇〇	増 二〇〇
同 第六三號	一、〇〇〇	一、一〇〇	増 一〇〇
同 第六四號	一、〇〇〇	一、〇〇〇	なし
同 第六五號	六〇〇	六〇〇	なし
同 第六六號	一、〇〇〇	一、六〇〇	増 六〇〇
同 第六八號	一、〇〇〇	一、三〇〇	増 三〇〇
同 第六九號	一、〇〇〇	一、二五〇	増 二五〇
同 第七〇號	一、〇〇〇	一、〇〇〇	なし
同 第一三號	一、〇〇〇	一、〇〇〇	なし
同 第五七號	一、〇〇〇	一、四〇〇	増 四〇〇
同 第一五號	一、〇〇〇	一、〇〇〇	なし
同 第四四號	一、〇〇〇	一、〇〇〇	なし
同 第四三號	六〇〇	六〇〇	なし

合同後の成績

一、合同第一年次(昭和三年)に於ける着業状態及其の成績
本年次に於ては
イ、雄武村字幌内所在紋鮭定第六〇號 (二階網紋鮭定第六一號を含む)
ロ、雄武村字雄武所在紋鮭定第六六號 (第六七號を含む)
一、ロ漁場間の間隔七、〇〇〇間
口、漁場の前面なる合同外前田元次郎氏 の二ヶ所を漁場とは約七、〇〇〇間
着業漁場と決定し、此間に介在する残餘十三ヶ統は漁場毎に沖出間数三〇〇間又は六〇〇間以上延長せしめざるを以て賃貸し、或は休業せしめ、以て着業漁場の前面を保護せり。而して着業漁場(イ)は漁期中途、時化の爲め漁具損傷せるを以て爾後休業し、(ロ)漁場のみ完全に營業せり。
其の漁獲高
イ、漁場 五百石
ロ、漁場 千三百石
計 千八百石
本年次は本道一帯の不漁時に際會せるも收支全ふするを得たり。

(本年次の終りに苦米地次郎氏合同を脱退し新潟市山田長平氏代りて入る、従て出資額に異動を生ぜししも略す)。
二、合同第二年次の着業状態及其の成績

本年次は事業の範圍を擴張し、住友鑛業會社所有漁場にして紋別町海面に相連接せる八ヶ漁場(前年迄は下湧別村横山理三氏の賃借經營せる漁場)を左記の通沖出延長の目的を以て整理せしめ、尙重要漁場には二階網を設けしめたる上賃借せり。

賃借漁場の整理前後に於ける沖出間数を左に掲ぐ。

免許番號	沖出間数		沖出間数の増減
	整理前の終點	整理後の終點	
紋鮭定 第四五號	一、一〇〇	一、一〇〇	なし
同 第八一號	一、四〇〇	一、〇〇〇	減 四〇〇
同 第八三號	一、〇〇〇	一、六〇〇	増 六〇〇
同 第八四號	一、〇〇〇	一、六〇〇	増 六〇〇
同 第八五號	一、〇〇〇	一、五〇〇	増 五〇〇
同 第八六號	一、〇〇〇	一、三〇〇	増 三〇〇
同 第八七號	一、〇〇〇	一、〇〇〇	なし
同 第八八號	一、〇〇〇	一、〇〇〇	なし

以上の八ヶ統にして此の間の距離六千四百間なり。
本年次に於ては

イ、雄武村字幌内所在紋鮭定六〇號 (二階網紋鮭定第六一號を含む)
ロ、紋別町字紋別村所在紋鮭定第八一號 (二階網紋鮭定第八二號を含む)
一、漁場と其の前面なる合同外前田元次郎氏 漁場間の間隔約一、四〇〇間
口、漁場と其の前面なる伴田徳十郎氏漁場との二ヶの間隔約七、六〇〇間
所を着業漁場と決定し、イ、漁場の前面に當る合同所有漁場の處置は前年の通とし、ロ、漁場の前面に當る賃借漁場は休業せしめ以て着業漁場の保護に努めたり。
其の漁獲高
イ、漁場 三千五百石
ロ、漁場 千五百石
計 五千石
本年次は北見一帯豊漁に屬する漁獲なりしも、イ、漁場の如きは從來他に殆んど類例なき漁獲高を示せり、收支相償ふて餘りあるは言を俟たず。

合同前後に於ける各漁場の漁獲高

年次	紋鮭定		
	第六〇號	第六六號	第八一號
合大正十四年	六〇〇	四〇〇	不詳
同昭和元年	六〇〇	七〇〇	同
前同二年	一、三〇〇	六〇〇	同
			同第五七號
			四〇〇

合同三年	500	1,000	500
合同四年	500	1,000	500
後同	500	1,000	500

参 考

昭和三年に於ける合同漁場ニヶ所分經營費
總額十二万圓

内 譯	給料 約九十名分
食 費	漁夫配當費與
漁網及ロープ	漁船建造費發動機船 ²⁰ H.P
土俵用繩葎代	建込準備人 ²⁰ 費(食料共)
六千五百圓	荷捌所新設費(土地買收價格を 含む)
一万圓	冷蔵用水代
二千圓	諸稅公課
五千圓	雜 費
四千圓	

二、枝幸鱒漁業合同

合同の理由 北見國枝幸沿岸も前記雄武沿岸と同様、其海遠淺なる關係上、鮭漁初期に於ては鮭群沿岸近く來

同	四八號	同	同
同	五六號(同)	同	奈良勝美 外一名
同	三三號(同)	同	六〇號(同) 枝幸村 佐 賀 き み
同	三四號(同)	同	六三號(同) 同 吉 野 安次郎
同	三五號(同)	同	六四號(同) 同 佐賀耕吉 外一名
同	三六號(同)	同	六八號(同) 同 岩 谷 弟 吉
同	四六號(同)	同	六一號(同) 同
同	四五號	同	同
同	四九號(同)	同	函館市 駒井合名會社
同	七〇號	同	同

合同方法

本漁業合同の爲め、合同區域内の各漁業權者(但し小樽市奈良勝美外一名、及函館市駒井合名會社にありては漁場賃借權者)、並に主なる從業者等に依て枝幸鱒漁業株式會社設立せられたり。本會社は資本金四十六万圓にして、内二分の一、則ち二十三万圓拂込とし、此の拂込額中約八万圓は現金、殘額約十五万圓は現物出資を以て充當せり、出資現物としては漁場營業權、漁船並に漁具とす。即ち本合同は漁業權の合同にはあらずして、漁業權は依然漁業權者の所有に屬し、會社は單に漁業權者又は一部の賃借權者より漁場の營業權を譲り受け之れを一手に經營する權利を有するものなり。

合同の成績

合同の成立せるは昭和四年八月にして、合同に依り會社の漁場を經營せるは昭和四年一ヶ年なり此の年建網十五件中十件は休業し、五件着業せり、合同區域内に於ける建網の從來に於ける總漁獲高は約三千五

游するも、中期より晩期に亘りては沖合を回游する傾向あり。從て鮭建網業者は建網の沖出間數を増加するにあらざれば有利に漁業を營み得ざる關係あり、然るに此の沿岸に於ける建網數は多數にして、漁場距離近く、八百間乃至千間に過ぎざるが故に、單に沖出間數を増加するのみにては漁業を有利ならしむるを得ず、漁場を整理し漁場間隔を大ならしむる必要ありたるを以て、此の目的實現の爲め漁業合同をなすに至れり。

漁業合同區域

漁業合同區域は枝幸村殆んど全沿岸にして、加入漁業權數十五件、加入せざるもの三件なり。而して加入せざる三漁業權の位置は何れも村堺に於けるものにして、紋別郡境一件、頓別村境二件なり、此の三漁業權を除きたる沿岸、延長約十里に亘る區域に於ける漁場は今回の合同に加入せるものなり。

加入漁業權

加入漁業權加入漁業權數は前記の如く十五件にして、免許番號並に漁業權者次の如し。

免許番號	漁業權者氏名
枝幸第五三號	稚内町 北見株式會社
同 四四號	枝幸村 村金拓殖合名會社
同 五九號	同 同
同 五四號	稚内町 北見株式會社
同 四七號(枝幸定六五號二階網を含む)	枝幸村 佐賀耕吉 外一名

百石内外なりしもの、此の年漁場の整理に依て五千石餘の漁獲を挙げたり。

尙本合同成立の結果として、枝幸郡を地區とする枝幸鱒養殖水産組合設立せられ、從來枝幸漁業組合に於て經營しつゝありたる、頓別、徳志別、幌別の三解化場を繼承し、之れを經營することゝなれり。

入 會 者

一種會員	厚岸水産會
厚岸郡厚岸町	厚岸水産會
函館市大町	合名會社栖原商店
二種會員	
札幌市南八條西九丁目七五四	水産業 安藤 武雄
國後郡泊村	東沸東沸解化場員 中下福太郎

會費領收報告

二種會員よりの會費は今後領收證を發せず、本欄に掲載して報告するに止む。

氏 名	金	高	年	度	摘 要
武田 志麻之輔	1,000	1,000	五	五	
河邊 嘉一郎	1,000	1,000	五	五	
品川 金次郎	1,000	1,000	三、四		

會 告

一、昭和四、五年度會費納入方御願
昭和四、五年度會費をなるべく速に御納入下さる様會員各位に御願します。

二、寄稿歡迎
本會は會員たると否をと問はず鮭鱒孵化事業に關する論説、資料、文藝は勿論、會員諸君の情報其の他参考となるべき事項大小に關せず御投稿を歡迎致します。奮つて御寄稿を御願ひ致します。(原稿料として薄謝を呈します)

三、質疑應答
本會は鮭鱒孵化事業に關する諸種の質問に御答へ致します。御遠慮なく御申出下さい。

四、受托事務

本會は鮭鱒孵化事業に關する各種の設計、鑑定其の他願書類の作成の委託に應じます。料金は左の通りです。

- 一、鮭鱒族孵化場又は養魚池の設計
鮭鱒人工孵化場一件につき三十圓以上
其の他 一件につき 十圓以上
- 二、養殖用器具の設計又は鑑定
一件につき 五圓以上

三、養殖用水族の鑑定
一件につき 一圓以上

四、養殖に關する願書類の作成
一件につき 一圓以上
右の他實地調査を要する場合は之れに要する實費を申受けます。

五、廣告引受
本會は會員其の他の方々の御便宜を計る目的を以て左の料金に依つて廣告を御引受致します。御希望の方は本會宛御申込下さい。

廣告料
一頁一回十圓 半頁一回五圓
四分の一頁一回二圓五十錢 八分の一頁一回一圓二十錢

尙寫真版入りの場合は右料金の倍額を申受けます。

六、會員募集

孵化事業に關係を有するもので未だ入會して居らない向に對しては會員諸君に於て極力御勧誘の上入會方御盡力を願ひます。

七、孵化場寫真募集

本誌口繪として孵化場又は孵化事業に關係を有する寫真を毎號掲載致し度いと思ひます。御持合の寫真なるべく原板御寄贈を願ひます。

鮭鱒孵化用器具ノ御用命ハ是非!!弊店へ

- 一、鮭、鱒、鮎、鯉、孵化盆及同枠
- 一、同孵化槽、受卵器
- 一、アスファルト(流動)塗料
- 一、テレピン油、各種染料
- 一、龜 甲 紗(卵掬用)海綿
- 一、醫療藥品、工業藥品、高名賣藥
- 一、山本藥院製劑衛生材料
- 孵化用器具製作發賣元

父子堂 山本勝見藥舖工作部

札幌市北三條東六丁目(電停前)
電話 二五二七番
番振替小樽三九七八

定 一冊 參拾錢 郵稅貳錢
價 六冊(一ヶ年分)壹圓八拾錢 郵稅不用

昭和五年六月廿五日印刷
昭和五年七月一日發行

札幌市南八條西十丁目一〇三五番地
編輯兼發行人 齋 藤 光 雄

札幌市北一條西六丁目一番地
印刷人 大 谷 木 茂

札幌市北一條西六丁目一番地
印刷所 文昭堂印刷所
電話 三、二八五番

札幌市北三條西六丁目
(北海道廳水産課内)

發行所 北海道鮭鱒孵化事業協會
電話 二六三〇(内線五七番)
番替口座水樽二一四八番

式一器化孵罇鮭
賣販造製

大
林
長
兵
衛

札幌市北四條西七丁目一番地
電話 一四五一番